

## ハイタトラス 2011 日本選手団編成にかかる指針

全日本聾唖連盟スポーツ委員会 2008年11月10日策定

全日本聾唖連盟が(1)高水準の競技に適切な準備ができていない競技者を「ハイタトラス 2011」に派遣し、(2)競技者が持てる能力を出し切れる環境を整えて「ソルトレイク 2007」以上の好成績を修めるために、スポーツ委員会は日本選手団編成にかかる指針をここに策定し、2008年11月10日に発表する。

この指針は全日本聾唖連盟のデフリンピック委員会に報告されるほか、国民広く公開されるものである。

各競技団体はこの指針をもとにハイタトラス 2011 でメダルを競えるための選手強化及びチーム編成準備を行う。

### ★代表選手推薦の手順

- ・2010年3月末 各競技団体より推薦選手リスト提出
- ・2010年4月末 (財)全日本聾唖連盟スポーツ委員会にて代表候補選手決定
- ・2010年11月末 (財)全日本聾唖連盟デフリンピック派遣委員会にて代表選手決定
- ・2011年1月20日 最終エントリー

### ★代表選手推薦基準について

高水準の競技に適切な準備ができていて、メダルの可能性がある競技者だけを「ハイタトラス 2011」に日本代表として派遣するために、各競技団体は次に示す推薦基準に基づいて選手の推薦を行う。

各競技団体は推薦する選手・スタッフがデフリンピックの精神及び世界アンチ・ドーピング規定について十分に認識しこれに従って日本選手団団員として行動することを保証しなければならない。

◎聴覚障害を持つ日本選手団団員は少なくとも 2009・2010 年度において全日本聾唖連盟会員で無ければならない。

(尚、推薦基準をクリアした選手の年齢が高校生でも会員登録は必須とする)

◎全日本聾唖連盟が認定するろうあ者冬季体育大会への出場を義務とする。

(2008 年度では全日本聾唖連盟後援の関東ろうあ者冬季体育大会、2009・2010 年度は未定)

### 《推薦基準》

#### ※アルペンスキー競技

- ・2010 年開催予定のデフ世界選手権大会でベスト 8 の成績をおさめること
  - ・SAJ 公認、ジャパラリンピック等の公認大会で好成績をおさめること
- (上記公認大会に強化選手が複数出場して各選手の成績を比較できるようにする)

※アルペンスノーボード競技

- ・2010年開催予定のデフ世界選手権大会でベスト8の成績をおさめること
  - ・FIS・SAJ公認等の公認大会で好成績をおさめること
- (上記公認大会に強化選手が複数出場して各選手の成績を比較できるようにする)

※ハーフパイプ競技

- ・2010年開催予定のデフ世界選手権大会でベスト8の成績をおさめること
  - ・FIS・SAJ公認等の公認大会で好成績をおさめること
- (上記公認大会に強化選手が複数出場して各選手の成績を比較できるようにする)

※クロスカン트리スキー競技

- ・2010年開催予定のデフ世界選手権大会でベスト8の成績をおさめること
  - ・FIS・SAJ公認、ジャパパラリンピック等の公認大会で好成績をおさめること
- (上記公認大会に強化選手が複数出場して各選手の成績を比較できるようにする)

※カーリング競技

- ・2009年度中に国内で大会もしくは競技会を実施すること。チーム総数は原則4チーム以上が望ましい。
- ・2009年の世界選手権大会に出場すること。
- ・JSA(社団法人日本カーリング協会)等の公認大会で好成績をおさめること

※スロープスタイル競技

- ・JSBA(日本スノーボード協会)等の公認大会で好成績をおさめること
- (上記公認大会に強化選手が複数出場して各選手の成績を比較できるようにする)

※アイスホッケー競技

- ・国内普及が重要課題である現状では推薦の見込みがない為、派遣なしとする。

★各競技チームのスタッフ

- ①デフリンピックで定める各競技につき最低1名のスタッフを保証する。
- ②選手4名毎に1名のスタッフを保障する。  
(例：アルペンスノーボードで6名選手の場合は、①1名+②1名の2名となる)
- ③ スタッフにどの役割を振るかは各競技チームが決定する。ただし、監督を必ず置くこと。監督は下記の条件を備えている方が望ましい。
  - ★ 国際レベルの競技大会に出場経験を持ち、かつマネジメント及びコーチングについても一定の経験を有していること。
  - ★ 代表選手団事務局と連帯を取り、意思疎通をはかれること。
- ④各競技毎にトレーナーの同行が望ましい。
- ⑤保証人数を超えるスタッフの配置は自由とするが、各競技協会が経費を負担することとする。